

ボッシュ、グローバルでのRPA標準として  
Automation Anywhereを選択

業務改善のツールとしてだけでなく、  
障害者の自己実現を強力に支援



## 組織の概要

世界トップクラスの自動車機器サプライヤーとしてグローバルに事業を展開、日本では1911年より事業を開始したボッシュ株式会社。自動車関連機器を手掛けるモビリティソリューションズを中心に、産業機器テクノロジーやエネルギー・ビルディングテクノロジー、消費財という4つの事業領域を展開しており、革新的なソリューションを提供し続けています。

## 課題 社内に複数のRPAが乱立、障害者支援に向けた新たな施策が必要に

製造業であるボッシュグループでは、以前からデジタルトランスフォーメーション(以下、DX)を積極的に推進してきましたが、社内的な業務のデジタル化に向けたDX推進の遅れに課題を持っていたと語るの、BBMドメイン業務プロセス管理部 プロセスイノベーション&権限管理 マネージャー 田中 剛氏です。そこで重要な施策の1つとして位置づけられたのがRPAでした。ただし、各事業部門で個別に予算化してRPAツールが導入されており、グループ全体で統一された環境ではなかったのが実態だったのです。

一方で、ダイバーシティを重視している同社では、精神発達障害のスタッフ「B-associate(s)」(以下、B-a)を積極的に採用し、会社や社会への貢献活動を行っています。ここでも高いポテンシャルを持つB-aに難易度の高い業務に従事してもらえ環境づくりに課題を持っていたと、障害者雇用を支援する専任組織「業務サポートセンター」のセンター長 税所 博氏は語ります。そこで注目されたのが、同社が注力するRPAを業務サポートセンターとして推進する活動でした。RPAを通じて会社への貢献度を高めることで、障害者雇用の認知や理解を深めていきたいと考えたのです。

## ソリューション 活用の裾野が広がることで、グローバルでRPA標準として選択

社内業務におけるDX推進に向けて、グループとして利用する標準的なRPAを選択するべく各部門と調整を進めるなかで、最終的には本社管理部門が推していたAutomation Anywhereが選択されました。シンプルな構造であるAutomation

## メリット

月単位で **784** 時間の改善 約 **3** 倍

社内業務における改善効果

昨年と比較したBot開発量

## 自動化されたプロセス

- ・ 試作部品の SHIPPING プロセスにおけるシステム側の作業
- ・ 各社カスタマーポータルサイトからの受注確定情報のダウンロード
- ・ 基幹システムからのデータダウンロードおよび加工
- ・ Excel内の在庫データを基幹システムから抽出して書き出し
- ・ 中途入社メンバーへの定期アンケート送付および結果の自動集計

## 業界

- ・ 自動車、輸送機器業界

「ほかのソリューションと比べて Automation Anywhereはシンプルな構造で、まるで子ども向けプログラミング言語のScratchを扱うように開発が進められそうな印象でした」



— ボッシュ株式会社  
BBMドメイン業務プロセス管理部  
プロセスイノベーション&権限管理  
マネージャー  
田中 剛氏

Anywhereであれば、ユーザー部門でも扱えるため、RPAを社内に広めていくことも容易だと田中氏は評価します。

その後、税所氏が業務サポートセンターとしてRPA推進に関わることを決断したタイミングで、田中氏と接点を持つ機会を得たことで、同センターでもAutomation Anywhereを軸にRPAに取り組むことになったのです。

## 詳細 プログラム開発未経験でもRPA開発可能な環境整備に成功

現在は、ボッシュグループ全体としてAutomation Anywhereを標準的なRPAツールとして統一し、日本ではB-a含めて30名ほどのメンバーが開発可能な状況です。開発依頼は、現場から要望が寄せられるボトムアップ型と、各部門のプロセスエキスパートチーム内から発案されるトップダウン型のアプローチで進められています。

業務サポートセンターにてRPA開発を行うB-aは10名ほどにまで広がっていますが、プログラム開発経験のあるメンバーはほぼいません。そこで、eラーニングを活用してAutomation Anywhere認定資格を取得したうえで、社内で勉強会や情報交換を通じた習熟度向上を実施しています。

Botの開発はすでに日本では40を超えるまでに広がっており、そのうち業務サポートセンターでは6つほどのBot開発をすでに終えている状況です。主なものは、基幹システムなどからの所定のデータをダウンロードしたうえで加工するBotなどが作成されています。

## 結果 月単位で784時間の業務改善効果を生む

日本のボッシュでは、昨年と比較してサブのBotまで含めてBot開発量が3倍ほどに増えており、月単位で784時間もの改善につながっています。RPA開発によって新たな業務を自ら開拓していく推進力を養うことにつながるだけでなく、モチベーション向上にも役立っていると税所氏は評価します。

Automation Anywhereについては、Excelで利用するような関数が活用できるなど、直感的に利用しやすいとB-aからも好評です。プログラム言語を知らなくても開発できるのはAutomation Anywhereの強みであり、現場の改善活動という実践的なところに役立てることができるのは大きいと人事部門 業務サポートセンター 三ツ井 宏太氏は評価します。

## 今後 トップダウン型プロセスを推進しながら、RPA開発の拡大を目指す

今後については、トップダウン型のプロセス改善を通じて、さらに大きな活動に広げていきたいとBBMドメイン業務プロセス管理部 プロセスイノベーション&権限管理 林 采泳氏は力説します。日本としても、しっかりと効果を示していくことを意識したいと田中氏は期待を寄せています。また、業務サポートセンターにおけるBot開発と重ね合わせるなど、さらなる成長につながるような活動を続けていきたいと税所氏は力説します。

さらに、倉庫作業などいまだに多くの紙が利用されている物流の現場などでAI-OCR機能を持つIQ Botを活用することで、現場のデジタル化をさらに効率的に支援できる環境を整備したいと田中氏は語ります。

## Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォース プラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

**デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。**

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP

 [www.facebook.com/AutomationAnywhJP](https://www.facebook.com/AutomationAnywhJP)

 [contact\\_japan@automationanywhere.com](mailto:contact_japan@automationanywhere.com)

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。

2020年10月バージョン1

「業務の効率化によって会社に大きく貢献できるRPAだけに、プログラム経験がないなかでも参加したいと志願するメンバーが当初から多くいました。障害者雇用における自己実現を目指す有効な手段の1つだと言えます」



— ボッシュ株式会社  
人事部門 業務サポートセンター長  
税所 博 氏

「できなかったことができるようになる面白さが体験できるなど、自分の可能性の広がりをB-aそれぞれが感じることができるようになったのは大きい」



— ボッシュ株式会社  
人事部門 業務サポートセンター  
三ツ井 宏太 氏

「現場からのボトムアップだけでなく、各部門の事業部長にて計画を立て、具体的なターゲットを決めたうえでRPAによる自動化を進めていくようなトップダウン型のプロセス改善に向けた活動を加速していきたい」



— ボッシュ株式会社  
BBMドメイン業務プロセス管理部  
プロセスイノベーション&権限管理  
林 采泳 氏